

▼ ファームウェア アップデート手順書

FT-2000シリーズ/D用

YAESU
The radio

いつも最高の状態でご愛用頂くために、最新のファームウェアにアップデートされる事をお薦め致します。本製品は、一定の条件を満たすパーソナルコンピュータ※¹と市販のシリアルケーブル※²をご用意頂ければ、お客様ご自身でファームウェアをアップデートさせることが可能となっています。（“ファームウェア”とは、本体内部で動作しているソフトウェアの事です。）

（お客様での作業は、本手順書を最後までよくお読みになり、作業の流れをご理解頂いた上で、ご自身の責任において行って下さい。正しく作業が出来なかった場合の不具合につきましては、弊社にて有償で保守を承ります。）

1. ファームウェアのバージョンを確認します。

■ ファームウェアのバージョンを表示させます。

手順①. ACケーブルを接続し、FT-2000では背面にある

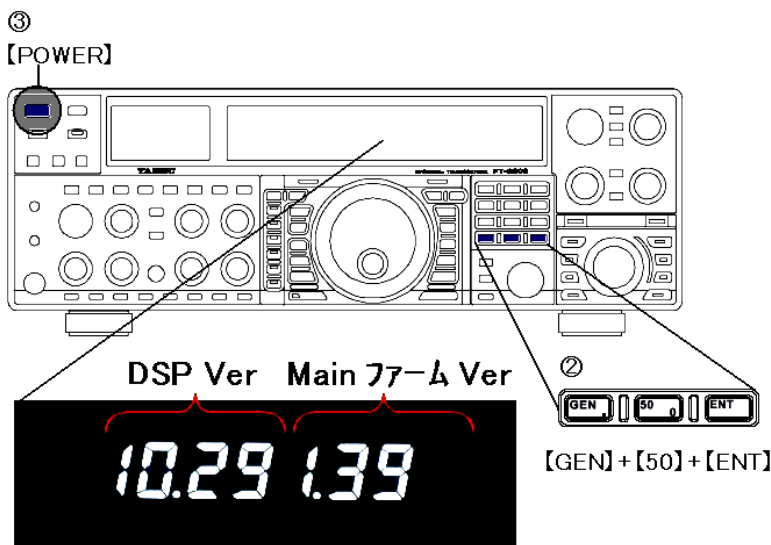
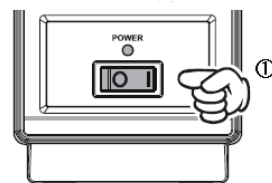
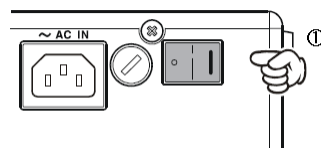
【主電源】スイッチを、Dタイプでは、接続された専用電源

FT-2000前面にある【主電源】スイッチを入れます。

（このときは未だ前面側の【POWER】スイッチは入れ
ないで下さい。）

手順②. 【50】、【GEN】、【ENT】3つのキー位置を確認します。

手順③. 手順②のキーを押しながら前面の【POWER】スイッチを入れます。



■ この手順によりファームウェアのバージョンが一定時間だけ表示します。

※ これまでにアップデートを行っていない初期の物ではバージョン情報を表示しませんが、以後の手順によりアップデートを行うことで、この表示が出るようになります。

2. 最新ファームウェアのバージョンを WEB で確認します。

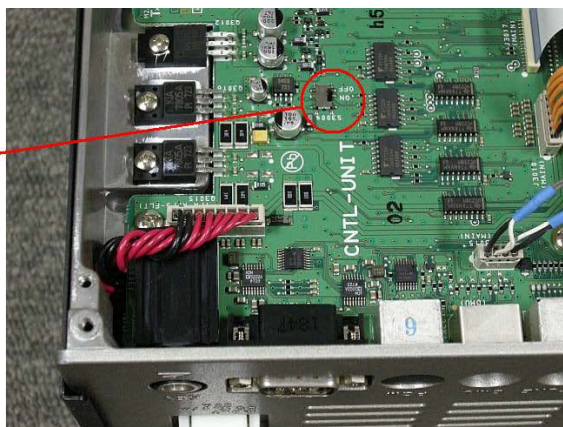
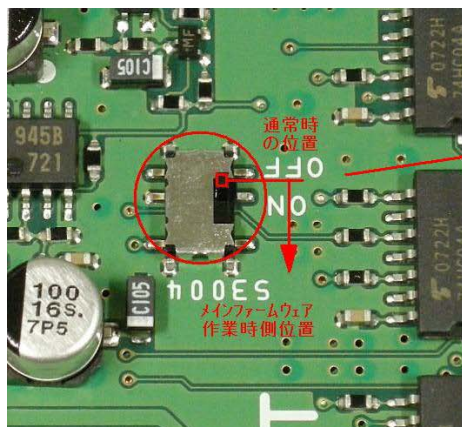
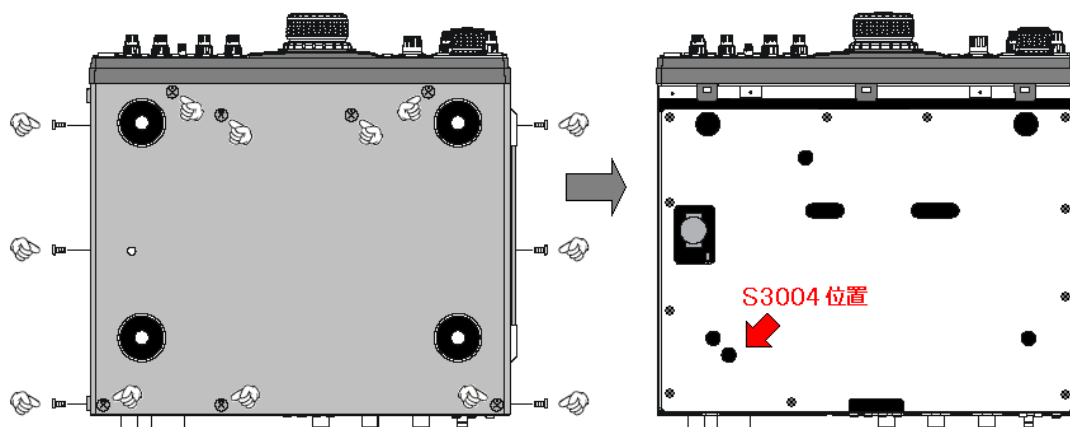
■ 当社のホームページよりファームウェアの最新情報を確認して、上記表示よりも数字が更新されていたら、続く手順によりアップデートすることをお薦めします。

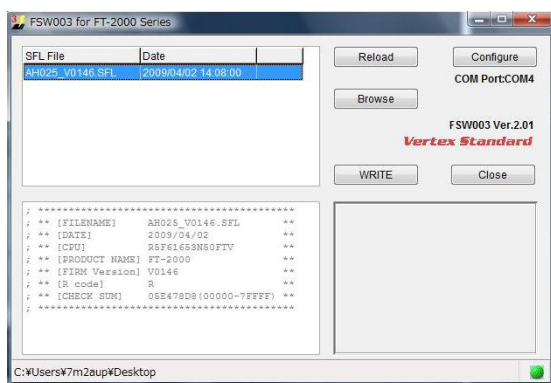
■ FT-2000/Dは、以下2項目それぞれに専用のファームウェアがありますので、必ず同時期の物がアップデートされているかをご確認下さい。

- ①. メインファームウェア（システム本体のファームウェアです。）
- ②. DSPファームウェア（メイン受信機と送信部のDSPに関するファームウェアです。）

3. ファームウェアが更新されていたら次の手順でアップデートします。

- ①. メインファームウェアの更新
 - ・ 前面パネルの【POWER】スイッチ、続いて背面の背面にある【主電源】スイッチを、Dタイプでは、接続された専用電源FP-2000前面にある【主電源】スイッチを切り、電源ケーブルを含むすべての接続ケーブルを一旦抜き去ります。
 - ・ 下図を参考に、本体ケース底面を開け、CNTL unitにある、ファームウェア更新用切替スイッチS3004の位置を確認し、同時にこのスイッチがOFFとなっていることも確認しておきます。
 - ・ 予め用意されたパーソナルコンピュータ（以降PC^{※1}と表記）、本体背面CAT端子間を、用意されたシリアルケーブル^{※2}で接続し、さらに本体には電源ケーブルのみ接続し、接続したPC^{※1}を起動します。
（※1,2の詳細は、本説明書の“5. 用意するものについて”をご参照下さい。）
 - ・ PC^{※1}の転送ソフトFSW003.exeを起動し、続いてファームウェア更新用切替スイッチS3004のノブをONの位置にスライドします。（切替スイッチは頻繁な操作に耐えるものではないため、無理な力を加えないよう取扱にはご注意下さい。）





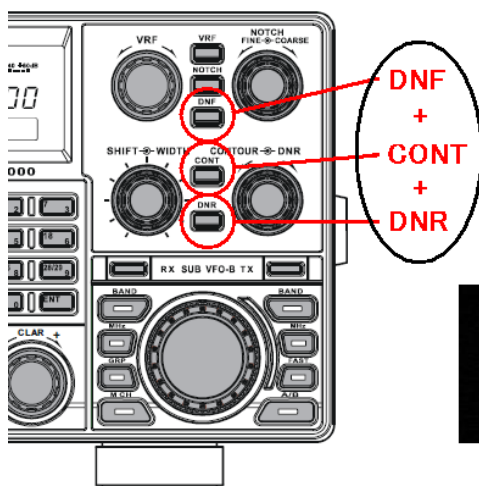
- ・以上の準備が完了したら、本機背面の【主電源】スイッチのみを、Dタイプでは接続された専用電源F P-2 0 0 0 前面にある【主電源】スイッチONとして、転送ソフト FSW003.exe 上で同時にダウンロードした最新のファーム・ファイルを選択し、[WRITE] をクリック。本機に転送します。（実行が正常に出来ない場合は、本説明書巻末の“6.トラブルシュート”をご参照

下さい。)

- ・ 転送時間は、ご用意したP C※¹の環境次第で大きく差があります。転送が開始されると、転送ソフト内にある転送状況のバーグラフがゆっくりと伸び始めますので、転送中は絶対にそれぞれの機材の電源が切れないようご注意ください。
- ・ 転送が完了したら本体背面の電源スイッチを切り、シリアルケーブル※²を本体から外して、S 3 0 0 4 を元のOFF位置に戻します。
- ・ 再び本機背面の【主電源】スイッチを、Dタイプでは接続された専用電源F P-2 0 0 0 前面にある【主電源】スイッチONとした後、前面パネルの[F A S T]キーと[L O C K]キーを同時に押しながら本機前面パネルの【POWER】スイッチをONとしてリセット・スタートさせます。
- ・ さらに本機前面パネルの【POWER】スイッチをOFFとして、1項のバージョン確認方法によりファームウェアが更新されたことが確認出来たら底ケースを元に戻して作業完了です。

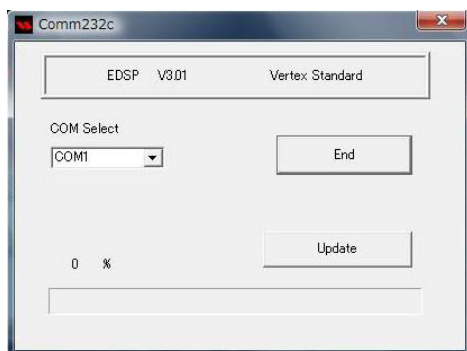
②. DSPファームウェアの更新

- ・ 本文1項のバージョン確認方法により、メインファームウェアの更新（もしくは最新であることを確認）が完了したら、続いてDSPのファームウェアを更新（もしくは最新であることを確認）します。
- ・ DSPのファームウェアの更新作業は、メインファームウェアの作業で操作した内部スイッチの操作は不要ですのでケースを開ける必要はありません。予め用意されたP C※¹と、本機背面C A T端子間を、ご用意したシリアルケーブル※²で接続し、さらに本機には電源ケーブルのみ接続し、P C※¹を起動します。
- ・ 以上の準備が完了したら、本機背面の【主電源】スイッチを、Dタイプでは接続された専用電源F P-2 0 0 0 前面にある【主電源】スイッチONとし、続いて下図を参考に、【DNF】、【CONT】、【DNR】3つのキーを押しながら前面の【POWER】スイッチを入れます。



← 左図位置の【DNF】+【CONT】+【DNR】3つのキーを押しながら前面の【POWER】スイッチを入れますと、周波数ディスプレイに↓の表示が現れる。





- ・ 周波数ディスプレイに“d S P P r g N01”表示が現れたらファームウェアの転送ソフト“EDSP-301.exe”を起動し、[Update]をクリック。対象の“AH025H_VXXX 拡張子 out”ファイル最新版を選択して[開く]をクリック。P C※¹からの書き込みが始まります。(実行が正常に出来ない場合は、本説明書巻末の“6.トラブルシュート”をご

参照下さい。)

- ・ 転送時間は、ご用意頂いたP C※¹の環境次第で大きく差があります。転送が開始されると、転送ソフト内にある転送状況のバーグラフがゆっくりと伸び始めますので、転送中は絶対にそれぞれの機材の電源が切れないようご注意ください。
- ・ 転送が完了したら本機前面の【POWER】スイッチにより電源を切り、RS 2 3 2 Cケーブル※²を本機から外し、P C※¹のファームウェア転送ソフトを終了させます。(※^{1,2}の詳細は本説明書の“5.用意するものについて”をご参照下さい。)
- ・ 最後に本機前面パネルの[F A S T]キーと[L O C K]キーを同時に押しながら同前面パネルの【P O W E R】スイッチをONとしてリセット・スタートさせて完了です。

4. アップデートされたバージョンに対応した取扱説明書を取得します。

アップデート作業後は、本機に対応した取扱説明書(P D F)をダウンロードしてご確認ください。

5. 用意するものについて

■ ファームウェア転送ソフトのセットアップ。

この手順書では、本機内にある2つのシステムにアップデートを行う必要があるため、お客様がご用意頂く、パーソナルコンピューター(P C※¹)には、以下2つの転送ソフトをダウンロードしてセットアップしておきます。弊社のWEBページより、それぞれのZ I PファイルをP C※¹内に適当に作ったフォルダにダウンロードします。フォルダ内に保存したZ I Pファイルを解凍して、展開した全ファイルを、インストールするP C※¹のデスクトップなどにコピーします。

- ①. メインファームウェアの転送ソフトは展開したファイル中の“FSW003.exe”  アイコンをクリックすると、起動します。最新版の“AH025_VXXX 拡張子 SFL”ファイルを転送ソフト内で選択して使用します。
- ②. D S Pファームウェアの転送ソフトは展開したファイル中の“EDSP-301.exe”  アイコンをクリックすると、起動します。最新版の“AH025H_VXXX 拡張子 out”ファイルを転送ソフト内で選択して使用します。

■ アップデート用に適したパーソナルコンピューター(P C※¹)の条件は・・

- ・ COM(RS-2 3 2 C) P O R T のある パーソナルコンピューター
- ・ Microsoft Windows 2000 以上のオペレーティング・システム
- ・ ファームウェアとその転送ソフトインストール用に3 0 M B以上の空き容量のあるハードディスク

- ・ 256MB以上のRAM
- ・ 1024×768の画面解像度、256色以上をサポートするビデオカードとディスプレイ

■ 作業に適したシリアルケーブル^{※2}は・・・

使用可能なシリアルケーブル^{※2}は、市販のRS-232C規格で、フル結線のストレートタイプをご用意下さい。
市販品の多くは、コネクタ部のオスメスが合致しますが、まれにオスメスが逆のタイプもありますので、事前にご確認下さい。既にハムログなどで、本機との動作が確認出来ていれば、同環境で作業は可能です。

6. トラブルシューティング

■ 弊社のホームページでダウンロードできるファームウェアは圧縮（ZIP）ファイルです。

取得したZIPファイルは、解凍した展開した全ファイルを、インストールするPC^{※1}のデスクトップなどに適当なフォルダを作り、コピーして使用します。（解凍して展開された転送ソフトのEXEファイルをそのままクリックしても起動しません。）

■ 転送ソフトを起動しても、COM（RS-232C）PORT を認識しない場合は・・・

接続したシリアルケーブル^{※2}のCOM（RS-232C）PORTのCOM番号の優先順位が低い場合などでは、そのまま転送ソフトを起動してもCOM port Error 表示が出て転送できない場合があります。その場合には、メインファームウェアの転送ソフト“FSW003.exe”では、転送ソフト画面内の[Configure]の設定により、接続したシリアルケーブル^{※2}のCOM番号と同じ物を選択することで転送が実行されます。

同じく、DSPファームウェアの転送ソフト“EDSP-301.exe”を起動してもCOM port Error 表示が出て転送できない場合は、転送ソフト画面内の“COM Select”により、接続したシリアルケーブル^{※2}のCOM番号と同じ物を選択することで転送は実行されます。

■ COM（RS-232C）PORT がないパーソナルコンピュータの利用について・・・

ノート型や、デスクトップで小型の物などでは、USB PORT だけで、COM（RS-232C）PORT が無い場合がありますが、市販のUSBシリアル変換ケーブルを利用する事で作業は可能です。既にハムログなどで、本機との動作が確認出来ていれば同環境で作業が可能です。

接続したUSBシリアル変換ケーブルで増設したCOM（RS-232C）PORTを認識しない場合の多くは、パーソナルコンピュータのオペレーティング・システムが、USBシリアル変換ケーブルの接続に伴い、自動的にデバイスドライバを設定されたままの場合が多く、オペレーティング・システムのデバイスマネージャでは増設したCOM PORTが確認できていても、転送ソフトがそのCOM番号を認識できない場合があります。その時には自動で設定されたデバイスドライバをオペレーティング・システムのデバイスマネージャで削除した後、接続したUSBシリアル変換ケーブルを一旦外し、ケーブルメーカーのWEBサイトで、使用するオペレーティング・システムに対応したUSBシリアル変換ケーブルの最新のデバイスドライバを入手してインストールした後に、改めてUSBシリアル変換ケーブルを接続することで正常に認識することが報告されています。

本製品は、一定の条件を満たすパーソナルコンピュータ^{※1}と市販のシリアルケーブル^{※2}をご用意頂ければ、お客様ご自身でファームウェアをアップデートさせることが可能となっておりますが、本手順書の要領が不明なまま作業を行うと、本機が起動不能となるなど重大な不具合を引き起こしますので、本書を最後までよくお読みになり、ご自身の責任において行って下さい。アップデート作業は、お客様のご希望により、弊社でも有償で作業を承ります。

八重洲無線株式会社

アマチュア カスタマーサポート

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8

天王洲パースサイドビル 11F

TEL 03-6711-4045 FAX 03-6711-4272